

(第3種郵便物認可)



# 一栄の 異見私見

このところ米どころ  
 巨尾運んだり、米ど  
 ころからの米客が続い  
 たりして、あらためて  
 情報交換する中で、稲  
 作の担い手をめぐる問  
 題について考えさせら  
 れている。

第二は、兼業農家、  
 小農経営の減少が進行  
 しており、担い手の減  
 少とともに地域コミュニ  
 ティの脆弱化が急だ  
 ということである。北  
 陸では兼業農家が農外  
 就業を止めたら、しば  
 らくは専業農家で頑張  
 るというパターンが崩  
 れてきているようだ。  
 稲作の赤字は農外収入  
 で補っていたが、  
 農外収入がなくなれば  
 年金収入で補いをする  
 しかなくなる。しかし  
 ながら年金収入を稲作  
 に使ってしまうと生  
 活が成り立たなくなっ  
 てしまう、ということ  
 で、退職と同時に自給  
 する分の農地だけを残  
 して、あとは売却やら  
 賃貸、委託耕作に農地  
 を出す者が多くなって  
 いるという。一方、宮  
 城県では、農村にあっ  
 た工場等の海外移転に  
 よって兼業者が減少し  
 てしまったことから、  
 仕事を見つけやすい仙  
 台に就業し、週末等に  
 実家に戻って農業を行  
 う兼業農家が増加を続  
 けてきた。この人たち

は兼業をしている間に  
 仙台に家を建てしま  
 い、退職しても仙台に  
 そのまま住んで、実家  
 には戻らない。当面は  
 通って農業をしても、  
 親が死んでしまったり  
 したところで農地を処分  
 するケースが増えて  
 いるという。

第三は、昭和二桁世  
 代のリタイアにもな  
 い担い手の交代がすす  
 んだきたが、この次の  
 交代時期を果たして兼

り切れるかどうか不安  
 が募り大きな問題と化  
 している。宮城県の20  
 代から40前後の若手と  
 勉強会をして懇談する  
 機会があったが、集ま  
 った若手に今一番問が  
 問題になっているが聞  
 いてみたところ出とき  
 たのは、団塊の世代  
 の担い手のリタイアが  
 いつ始まるか、そして  
 これが本格化したとき  
 に地域農業を守ってい  
 けるのだろうか、との  
 強い懸念であった。昭  
 和二桁世代のリタイア

にもなると担い手が  
 いなくなった農地の多  
 くは、団塊の世代の担  
 い手が、経済性にはあ  
 る程度目をつぶしてで  
 も、農地をどこにもか  
 にも守らなければい  
 うことで、引き受けて  
 耕作し、結果的に規模  
 拡大して耕作放棄地の  
 発生を防いできた。し  
 かしながら団塊の世代  
 がリタイアしてしまっ  
 と、担い手の数自体が  
 少なくなるだけでな  
 く、採算を度外視し  
 てでも農地を引き受け  
 ようとする人はおぼ  
 やりにならなくなってし  
 まうというのである。  
 このように、これま  
 での稲作を守ってきた  
 兼業システムの崩壊  
 と、個別経営以上に地  
 域営農を重視してきた  
 担い手の減少とが合体  
 し、我が国の水田稲作  
 の存続は危機にさらさ  
 れつつある。そしてこ  
 のままでは、団塊世代  
 のリタイアという次の  
 波がくれば危機は決定  
 的なものとなりかねな  
 い、という構図が明らか  
 にならつつある。農  
 政の目玉とされる農地  
 中間管理機構が十分に  
 機能を発揮できていな  
 い実態が象徴するよう  
 に、規模拡大、農業所  
 得の増加を目指す農政  
 が現場の実情に即して  
 いないことは既に明白  
 である。早急に岩  
 盤として一定の所得  
 が確保できる仕組みに  
 立ち返らなければ、新  
 規就農を確保して地域  
 農業を守っていくこと  
 は難しい。与えられた  
 時間的猶予はもうわず  
 かしかないとを認識  
 してほしい。

(農的社会学サイエンス研  
 究所代表)

## 波 次のうという 波 次のうという

### アタイのリ世代の塊団